

山峡の地に残る 朱に染まる街並み

ベンガラ(弁柄)で財をなした町 吹屋

その町は、朱色で染められていました。

屋根には石州瓦。
赤褐色の黒っぽい瓦から黄色っぽい瓦まで。様々な朱色の瓦で葺かれた葺の波は、山が様々な緑で彩られるように、豊かな自然の生命力を感じさせてくれます。

土壁も板塀もベンガラ塗り。
ベンガラには防腐効果もある。そのため、街全体がベンガラの朱に染まりました。

濃緑の山間に、ベンガラ色の町は、いまでも中国山地にひっそりと息づいています。



広兼家 城郭のような高石垣

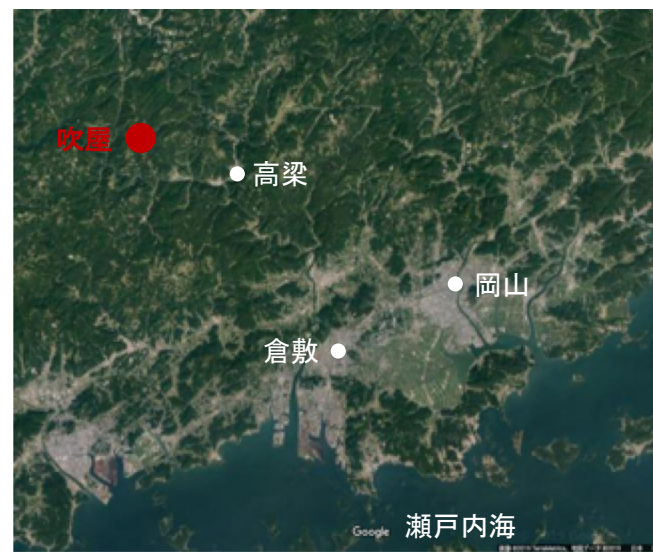


土壁も板塀もベンガラに染まる

倉敷市内を流れる高梁川。その中流に位置する山峡の旧城下町 高梁。そこからさらに山間へ。離合すら難しい急傾斜の道を、車でつづれ折り上ること半時間ほど。突然、目の前に朱色の街並みが現れます。

ベンガラの原料は鉍物。その原料(ローハ・緑黄)製造で財を成した広兼家は、城郭と見間違うほどの高石垣の屋敷を残しました。

山間に残された街は、いまでも朱色に染まっています。



まちあるきの考古学

とっても成功している 吹屋の街並み保全

日本各地には、歴史的な街並みを残す町がたくさんあります。

どの町も、先達達の残した歴史遺産を大切に守り、育て 町興しに頑張っていますが、決して、皆が成功しているとは言えません。

そのなかで、吹屋はとっても成功している事例ではないでしょうか。

中国山地の山奥、とんでもない山峡にあって、観光客が沢山いました。宿泊所と土産物屋が数軒、そして、街紹介のいくつかのパンフレット。イベントが開かれ、かつての商家は綺麗に再生していました。全国各地の歴史的街並みを巡った筆者も、これには感心しました。

とっても素敵な町。また行きたいです。頑張ってください！！



緩やかにカーブする街道沿いには、ベンガラ朱色や白漆喰の町屋が残る。土産物屋やカフェがあり、街並み保全が上手くいっている全国的に稀有な事例だといえます。



旧片山家
ベンガラの製造・販売を手がけた江戸中期創業の商家。一階は堅格子の京風、二階は石州瓦をあしらった白漆喰、とても瀟洒な外観デザインでした。



たくさん発行された町紹介のパンフレット
分かりやすく詳細に解説しています。



街中の宿泊施設も素敵でした！
隣接の旧小学校も宿泊施設に改築中でした。